

松山五番街 (Galleries-1F Gallery TK2)

ウィーンのアート史美術館で見た
ブリューゲルのバベルの塔が、
連想された。

超絶の筆で、
精緻に組み上げられた
ミニアチュールが、妖しく蠱惑的だ。

絵の前に立ち尽くす男が、
絵に吸い込まれる
ファンタジーがあった。

松山五番街の絵画に、違いない。

黒田 耕治 [黒田耕治賞]

伊藤 匠 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

岸 洸実 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

田中 里姫 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

小池 一子 [小池一子賞]

森本 凌司 (SelectionGYM-2F 中村恭子 推薦)

時間、身辺の環境、記憶などが写真のある布と針によってたぐり寄せられる。時空を刺す、といえいいのだろうか。写真をベースに一枚の布の両面で祖母と自分の時間が交錯する大きな平面作品をまず見ていた私の前に現れたもう一つの作品。それが「エコー」と名付けられた本である。層をなすイメージに私は圧倒された。こういう作品との出会いが ART FAIR ならではの楽しみ。本を左から見るか右から開くか (東西文化の差)、その単純な行為にもアーティスト魂は突撃する。若くなきやこんなに無垢に世界を捉えられない。森本くん、Stay hungry. Stay foolish. (Steve Jobs)

笹川 直子 [SASANA O 賞]

中村 太一 (Galleries-1F CAVE-AYUMIGALLERY)

以前より気になり、記憶の片隅に残っている作家だった。今も制作をつづけ作品が増え続けているとのこと嬉し。
ウォーターカラー on Canvas も良い

佐藤 京 [佐藤京賞]

伊藤 匠 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

天然の檜を自然乾燥させ、現代では貴重な昔ながらの技法で制作したどこか懐かしいような優しい気持ちにさせてくれる。無くならず継続してほしい技術である。今回は既に売約済みだったので追加予約で3月頃に届くのを楽しみにしている。

田中 里姫 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

吹きでふわっとした柔らかい薄作りのガラス作品を重ね、どうやって制作しているのだろうと不思議に思ってしまう。その技術力と感性が今後どのように展開され発展していくのが楽しみな作家である。

施井 泰平 [泰平賞]

泉川 のはな (SelectionGYM-2F 土屋誠一 推薦)

軍服をキャンバスにして日常風景を描いた作品。モチーフとして描かれた日常風景に対して支持体レイヤーに入り込むもう一つの日常が当事者にしか知り得ない肌感覚を喚起しているように感じました。

ヌケメ (Galleries-1F LEESAYA)

ポップなアイコンを扱うことで背後にあるアレコレを美術的な風情に置き換えていく作品群の中でひととき目を引いたピーポ君の作品を購入。刺繍表現でボヤけるピーポ君の像は、実存主義哲学者のサルトルがジャコメッティの彫刻に対して「永久に近づけない存在」と評したことを思い出させる。これは現実なのか、幻想なのか、どこまで近づいてもハッキリ見ることは出来ない。しかし同時にそれは物としてハッキリそこに存在している。ともあれ、この作品は僕が買わないといけないんだ、誰か他の人に買われたくないと思わせてくれた作品でした。

宍戸 遊美 [宍戸遊美賞]

石田 勝也 (Selection-ROOFTOP 栗原良彰 推薦)

作家の活動背景と自作の器に種を蒔いて育てる姿が作品の魅力として伝わってきた。作品を作り続ける日常をささやかに応援したいと思った。

柴山 哲治 [AG ホールディングズ賞]

伴 和憲 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

購入した理由は、本作品が、シンプル・プリミティブでありながら、精神性が高い作品と判断したからです。
江戸初期に将軍家茶道指南で大名茶人であった小堀遠州が膳所藩を指導して、完成した綺麗さびの代表格である「膳所焼(ぜぜやき)」を彷彿させるデザインである、と考えたからです。

嶋津 充 [嶋津充賞]

渡辺 志桜里 (SelectionGYM-2F 藪前知子 推薦)

昨年、新大久保の「WHITEHOUSE」で渡辺志桜里さんの作品『サンルーム』を見てから渡辺さんの活動に興味を持ちました。『サンルーム』は溶岩に住み着いた微生物や、ブルーギルのような魚や、稲や野菜のような植物などが雨水から得た水を循環させて維持される自律した生態系からなる作品です。この作品を購入することは難しいので、コレクションできるような作品を探していたのですが、今回、作家のおしっこで牡蠣を育てる作品の無から有を生ずるというコンセプトと同じ意味を持つ『GOLD RUSH』というネオンサインの作品が出品されたので、元々ネオンサインの作品が好きだったこともあって購入することにしました。

白木 聡 [白木聡賞]

堀 聖史 (SelectionGYM-2F Bambinart Gallery 推薦)

杉田 良和 [杉田良和賞]

井坂 友美 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

井坂さんは漆器の作家さんということで、遊び心のある面白い作品ばかりでとても目移りしてしまいましたが、その中でも特に気に入ったのが、漆塗りの盃でした。
内側に不思議な柄の蒔絵が施してあり、聞いてみるとプランクトンのひとつであるケイソウ(珪藻)とのこと。プランクトンも金の蒔絵で描かれると装飾品のような煌びやかさがあり、とても驚きました。井坂さんからこの盃でお酒を飲むと、蒔絵が輝いてより素敵ですよと教えていただきましたので、おいしく日本酒を頂いています。

田中 里姫 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

金沢・世界工芸トリエンナーレで大賞を受賞されたことは全く知らずに、完全に作品の印象に一目ぼれをし購入させていただきました。会場には憧憬というシリーズの非常に大きなガラスの置物の作品があり、そのミニチュアサイズを購入しました。